

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成29年度病害虫防除情報第9号

いちごの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**ハダニ類の増加が予想されます。  
早期発見に努め、発生初期の防除を徹底しましょう。**

1 作物名 いちご

2 病害虫名 ハダニ類

3 発生状況（経過）

11月中旬の巡回調査におけるハダニ類の発生面積率は41.7%（前年7.7%、平年46.7%）で平年並、寄生株率は20.8%（前年2.0%、平年13.4%）で平年よりやや多、葉当たり虫数は4.0頭（前年0.2頭、平年2.2頭）で平年よりやや多となっている（図1～3）。

近年、本ぼ定植直後よりハダニ類の発生面積率および寄生株率が高い傾向にある。

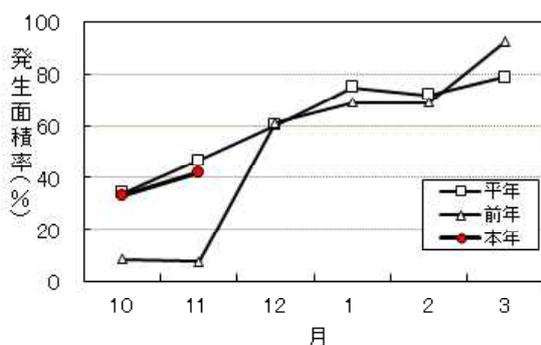


図1 ハダニ類の発生面積率の推移

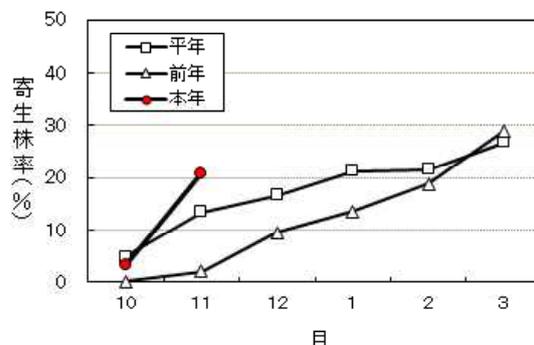


図2 ハダニ類の寄生株率の推移

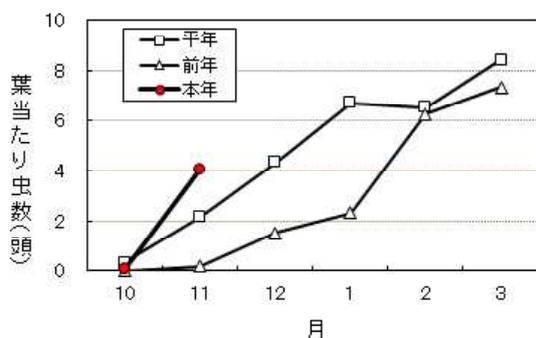


図3 ハダニ類の葉当たり虫数の推移

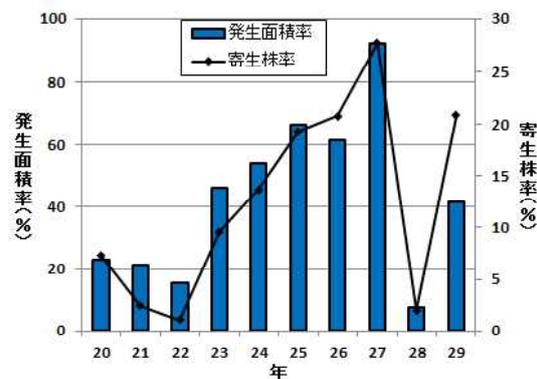


図4 過去10年における発生の推移

注) いずれの年も11月中旬の調査結果による

#### 4 防除上の注意

- 1) 収穫期に入り、多発生後の防除は非常に困難になるので、発生初期を見逃さずに速やかな防除を行う。初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、重点的に散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 発生が多い場合は5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるよう丁寧に散布する。除去した茎葉に寄生していたハダニ類は、短時間で離脱し、生育中の作物に移動するので、できるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 4) 施設内外の雑草は、ハダニ類をはじめ様々な害虫の寄主・増殖源となるので除去する。その際は、サイド際の除草もしっかり行い、除草した雑草はハウス内に放置せずすみやかに処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の併用、天敵の活用を図る。
- 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課  
（病虫害防除・肥料検査センター） 久野

TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp